

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語／言語文化】

1. 対象

授業に前向きに取り組む姿勢がみられ、意見交換も活発に行う。知識はあまりないものの、古典作品の面白さを理解したいという思いを持ち、これまでも「絵仏師良秀」「児の空寝」で人物の行動から心情を読み解く学習活動において、調べ学習やペアワークを通して、それぞれが学びを深める場面が多くあった。

2. 単元名 人間の普遍的な姿 物語を読む（全8時間）

教材：「東下り」（『伊勢物語』）（教科書『精選 言語文化』）

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解できる。
思考力、判断力、表現力等	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。
学びに向かう力、人間性等	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図ることができる。

4. 本時の目標

「東下り」における和歌に込められた思いや和歌の役割を考察する。

5. 授業展開【本時】・単元】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い

「東下り」における3つの和歌に込められた思いや和歌の役割を捉えよう。

考えるための材料

「唐衣～」の和歌の歌意と詠まれた状況を読み取る。	「駿河なる～」の和歌の歌意と詠まれた状況を読み取る。	「名にし負はば～」の和歌の歌意と詠まれた状況を読み取る。
想定される活動		
注や辞書等を活用し、歌意を読み取る。 旅に出た背景を読み取る。 「涙を落としてほとびけにけり」などの表現から考察する。	注や辞書等を活用し、歌意を読み取る。 「夢」についての昔の人の考えを知る。 「もの心細く」や「すずろなる目を見ること」などの表現から考察する。	注や辞書等を活用し、歌意を読み取る。 「思ひやれば、限りなく遠くも来にけるかな」や「ものわびしくて」「舟こぞりて泣きにけり」の表現から考察する。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

【エキスパート活動】

材料ごとに4人のグループをつくり、課題に取り組む。

（材料A）活動を通して、「唐衣～」の歌には、長年連れ添った妻と離れて遠くに来た状況とそのしみじみとした思いが込められていることに気付く。

（材料B）活動を通して、「駿河なる～」の歌には、現実世界でも夢でも愛する人に会えない切ない思いが込められていることに気付く。夢に対する当時の人の考え方もおさえる。

(材料C) 活動を通して、「名にし負はば～」の歌には、都に残した妻を心配する思いが込められていることに気付く。

【ジグソー活動】各エキスパート1人からなる3人グループをつくり、3つの和歌に込められた思いについてエキスパート学習で読み取ったことをそれぞれ伝え合う。着目点として、「都から東国に旅立った経緯」「和歌に込められた思いの対象者」「従者の反応」「場面の転換」について触れる。

▶3つの歌の共通点は何か話してみよう。▶京に対する思いが強そうだね。▶「身を要なきものに思ひなして、京にはあらじ」と書いてあったね。京にはいられない状況があったのかな。▶ネガティブな理由で京から東国へ向かった感じがするよね。▶本当は京に残りたい気持ちがあったのかも。▶そうだね。3つの和歌にも京への切ない思いが現れているよね。▶これは誰への思いが込められた和歌なんだろう。▶「つま」や「わが思ふ人」とあるから、愛する人に向けての思いだろうね。▶昔の人は相手を思っていると夢に出てくると考えていたようだよ。思い合っている人という意味だから、やっぱり愛する人だろうね。▶京に残した愛しい人への思いがこめられているんだね。▶従者の反応はどうだろう。▶「唐衣～」と「名にし負はば～」の和歌は、従者が泣いているね。▶それほど切なさが伝わってくるね。▶場面のうつり変わりはどうだろう。▶3つとも和歌が書かれてすぐに場面が切り替わっているね。▶和歌には場面転換を分かりやすくする役割もあるのかな。

・全体で共有し、どう感じるかについても含めて意見を交換する。その後、課題を個人で再考する。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- 「東下り」における和歌には、京から東国に下ることになった男のやるせない心情を想起させる働きがある。
- 「東下り」における和歌には、京へ残してきた愛する者への愛情が現れている。
- 「東下り」における和歌には、場面の転換を分かりやすくする働きがある。